

## リスク管理

オカムラグループのリスク全般について合理的にコントロールし、リスクがもたらす損失の最小化または機会の最大化を図るよう、サステナビリティ推進活動と有機的に結び付けて、計画的に推進しています。

### リスク管理体制

オカムラグループは、事業目的の達成に影響を及ぼす可能性（好ましい影響・好ましくない影響の双方を含む）をリスクと認識し、リスクの特定、分析および評価を行った上で、リスクを合理的にコントロールしてリスクがもたらす損失の最小化または機会の最大化を図るよう、組織的に活動しています。

また、リスクに係る組織的な活動であるリスクマネジメントを、グループのサステナビリティ活動と有機的に結びつけて、リスクマネジメントの有効性の向上を図るため、サステナビリティ委員会において、オカムラグループのリスクマネジメントに関する各種事項の決定ならびに有効性評価および改善指導を行っています。また、サステナビリティの計画的な推進を目的として設置した、サステナビリティ委員会の事務局であるサステナビリティ推進部が、リスクマネジメント事務局としても関わっており、リスクマネジメントの運営を支援・推進しています。（参考 ▶P.126～▶P.127）

### 気候関連リスクへの対応について

重要課題の一つである「地球環境への取り組み」の活動として、パリ協定に準じた世界の平均気温上昇を、産業革命以前に比べて1.5℃以下に抑えるため、科学的根拠に基づく温室効果ガス排出量削減目標を設定しています。この目標は2022年8月に国際的なイニシアチブ「SBTi (Science Based Targets initiative)」による認定を取得しました。

また、2023年5月発表の「中期経営計画2025」では、事業を通じて社会課題へ継続的に取り組む事を掲げ、今後さまざまな取り組みを進めていきます。

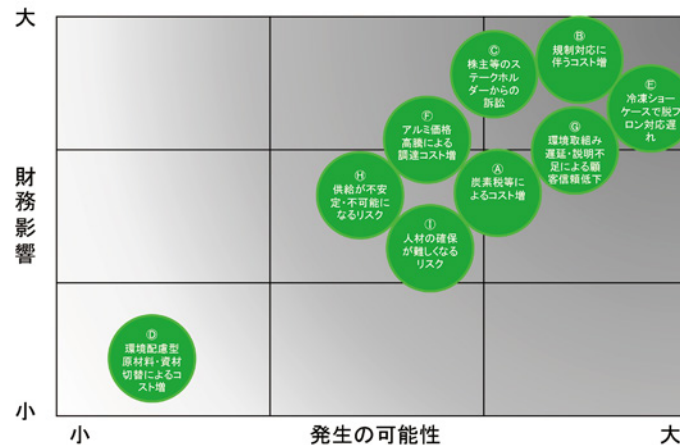
当社グループでは、「地球環境への取り組み」をビジネスの機会と捉え、サーキュラーエコノミー（循環経済）の概念に基づいた「サーキュラーデザイン」の考え方を策定しています。資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、

サービス化等を通じて付加価値を生み出し、資源・製品価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を積極的に進め、2050年カーボンニュートラル実現に向けて着実に実行していきます。

オカムラグループ気候変動情報開示 (TCFD)  
[https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/report/pdf/2024/TCFD\\_open\\_240625.pdf](https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/report/pdf/2024/TCFD_open_240625.pdf)

### 戦略（3/7）オカムラグループの気候関連リスク

TCFD提言が示す気候関連リスク・機会の枠組みに基づき、当社バリューチェーンにおける気候関連リスクを抽出し、「発生の可能性」と「財務影響」の二軸の観点で、重要な気候関連リスクを特定しています。



Copyright © 2024 Okamura Corporation All rights reserved.

okamura 11

「オカムラグループ気候変動情報開示 (TCFD)」より抜粋 オカムラグループの気候関連リスク